秋田魁新報　2026年10月06日付　県南

コンクリートカヌー大会

大曲工高が3連覇

手作りのコンクリート製カヌーの速さなどを競う「第31回土木系学生によるコンクリートカヌー大会」（土木学会関東支部主催）で、大仙市の大曲工業高校が3連覇を果たした。同校からは2チームが出場し、もう1チームは準優勝だった。生徒たちは「目標だった3連覇を達成できて良かった」と喜ぶ。

大会は8月21日、東京都の海の森水上競技場で開かれた。関東、東北などの高校から10校14チーム、大学・高専から8校9チームが出場。提出した書類を基に構造上の工夫や出来栄えを審査した得点と、2人乗りでカヌーをこぐレースによる得点の合計で順位を競った。

大曲工高は「継進1」と「継進2」の2チームで挑み、書類審査は全23チーム中どちらも6位。レースは「2」が1位、「1」が2位となり、合計点で「2」が優勝、「1」が準優勝した。



コンクリートカヌー大会で３連覇を果たした大曲工高の生徒たちと山崎講師（左奥）

大会には土木・建築科土木コースの3年生が課題研究の授業の一環でチームをつくり、毎年出場している。今年のメンバーは熊谷綾太さん、川原陸翔さん、高橋徹平さん、山田珀さん、佐々木颯也さん。土木研究同好会に所属する2年生の女子生徒3人が製作に協力した。

長年指導する山崎昇講師のアドバイスを受けながら、授業時間や放課後に設計と製作を進めた。最初に作った「継進2」は優勝した昨年大会の構造や配合をほぼ踏襲。その後に大会規定の変更が判明したことから「継進1」を製作した。

変更後の規定には骨材や空気量の指定が加わったため、材料の選定や配合に苦労したという。熊谷さんは「船体を少しでも軽くするように骨材を砕くなど工夫した」と振り返る。

大会当日は風の影響で波が高く、沈没の不安を感じながらのレースだった。山崎講師は「練習の勢いが出し切れていないようでハラハラした。最終的に結果を出してくれたし、自分たちで試行錯誤して製作、練習を進めてくれて頼もしかった」と評価する。

熊谷さんは「2チームともいい成績を出せてほっとした。うまくいかない点を考えて修正しながら取り組めてやりがいがあった」と話した。（三浦ちひろ）

ⓒ秋田魁新報社